

2024ZENKO in 大阪 こどもと教育分科会(第 8 分科会)

4つの報告の紹介

こどもと教育分科会では、子ども・保護者・教職員の思いをつないで、教育・学校を変えることをめざしています。今年は、4つの報告を受けて、「子どもの声を受けとめ、息がつまる学校を変えよう」をテーマに、グループ討議で考え合います。

報告1

「不登校の子どもに学校外・無償の健康診断を」

フリースペースたんぽぽ(横浜)から
たんぽぽ理事一之瀬百樹さん・当事者三枝まりさん
(大阪公立大学大学院生)・たんぽぽに子どもが通う保護者 Mさん

フリースペースたんぽぽは、この1年にわたって、「不登校児童生徒の学校外での無料健康診断」実現の運動に取り組みました。横浜市議会への請願は不採択となりましたが、「受診の機会確保のために他都市などの調査や医師会との検討を始める」と横浜市の態度を変更させました。学校医でなくとも学校外・無料で健康診断が受けられる制度をあらゆる地域に実現することをめざしています。不登校の健康診断未受診は、問題の氷山の一角です。この運動をきっかけとして、教育・学校にどう変わってほしいか、議論を起こしていきたいと思っています。

報告3

「子どもは心を空け渡さざるを得ない？テスト漬けの学校」

保護者の立場から 東大阪市中学校 1年生の保護者
清水悦子さん

清水さんは、中学校1年生の子どもの保護者であり、わが子を通して学校とかわかってきました。また、会計年度職員や有償ボランティアとして学校にかかわった経験もあります。それらを通して感じた、今の教育と学校のあり方への思い、学校や教育委員会に要望した経験などを話してもらいます。



報告2

「先生は無色透明であるべきなのか？」

子どもの立場から 京都市中学校2年生 田花結希子アイリーンさん

田花さんは、去年の小学校卒業式、中学校入学式で「君が代」を歌いませんでした。そのことに対して学校や先生がとった態度で、学校の現状・あり方について強い疑問を感じました。中学2年生の今、多くの先生の授業が楽しくないと感じています。その原因に、先生が無色透明というか、自分の考えを言わないし、自分の意見が問われるようなことには深入りしない態度があるように感じています。

報告4

「いま、見えてきた 大阪市立中学のいったい何が問題なのかが?!」

教職員の立場から 大阪市立中学校教員 Nさん

全国で唯一、高校入試の際の内申に反映させるチャレンジテスト(大阪府中学生統一テスト)は生徒や教員にどのような影響を与えているのか? また大阪市立中学で、不登校が多いのはなぜか? 現職の先生ならではの話を伺いたと思います。